

2017年度活動方針

2017年3月19日(日) 第39回定期地方大会

在日本大韓民国青年会大阪府地方本部

一、方針基調

今大会を持って、第 21 期執行部は 2 年目の折り返し地点に立った。執行部全員がそれぞれの思いを一つにし、個々の力量を最大限に発揮しながら、連携のとれた活力みなぎる会活動を目指していく。

2017 年度は青年会中央本部結成 40 周年という節目の年であり、周年記念事業としての「在日青年共育フォーラム」、そして「本国ワークショップ」が開催される。これを最大限活用するためにも、参加者を募ると同時に、これからの在日同胞青年のあるべき姿などを共に考え、当日はその蓄積した知識や議論を基に、全国の仲間と共に議論を深めよう。

現在の在日同胞社会は日本籍取得者やダブルが増加している。また、3 世・4 世の世代になるにつれて民族意識が低下し、自身のルーツに興味・関心を示さない層が増えている。在日青年との繋がりを持ち、自身のルーツについて関心を持つきっかけを作るのは本会の役割である。まだ見ぬ在日同胞青年が本会に参加するきっかけを多く作り、その中で一人ひとりと語り合い、思いを共有しよう。

私たちが暮らす日本社会では在日韓国朝鮮人に対する謂れなきヘイトスピーチが人権問題として挙げられているが、昨年度、所謂ヘイトスピーチ解消法が可決・成立した。大きな前進ではあるが、罰則規定はおろか禁止条項さえない努力義務のみの理念法という事で実効性に欠けているので、実効性のある法整備の必要性を訴え続けていかなければならない。今後も地域住民の一員として多民族・多文化共生社会実現のためのさまざまな活動をより充実化していく。

現在、本会が抱える組織的な問題として、組織力の低下や、発信・アピール力が弱いことが挙げられる。それを解消するためにも強固な組織作りと人材育成が急務であり、本会に関わる同胞青年に対して本会の理念や活動の魅力を伝えていくことが必須である。まずは定期的に顔を合わせる機会を積極的に持ち、本会がどのような活動をしているのかを周知しなければならない。そして幹部活動者の能力向上を目的に研修会や学習会を行う中で、本会の存在意義や活動理念を改めて共有していき、魅力ある会活動の運営を目指していく。在日同胞青年が本会を通じて出会い、在日とは何か、青年会とは何か、組織とは何かを学び議論する場にしたい。

我々の役割を認識し、仲間とともに問題の解決や、地域に貢献できるような活動に取り組むことによって大きな力が生まれる。その力は在日同胞社会にとどまらず日本社会にとっても決して小さいものではない。我々の活動の理解者を幅広く増やしながら、互いの文化や価値観を理解し合い、尊重できる成熟した韓日関係を構築していこう。また、同胞青年同士の出会いの場を提供し、親睦を深め、本会に参加するすべての人が、何か一つでも発見や得るものがあり、本会と出会って良かったと思えるような会にしていこう。そして、共に学び、共に笑い、共に歩みながら同胞青年の結集に力をそそぎ、本会の活性化と強固な組織作りに取り組んでいこう。

二、全国方針

1. 結成 40 周年事業の開催
 1. 「在日青年共育フォーラム 2017」の開催
 2. 全国キャラバンの開催
2. 本国ワークショップの開催
3. ハングル月暦の制作と配布

三、重点方針

1. 新規青年獲得および既存青年の定着化
 1. 月一定例会の開催
 2. 野遊会の開催
 3. 幹部育成

四、基本方針

1. ブライダル事業の安定した運営
2. コリアマダンの運営
3. ハングル学校の開校
4. 韓日連帯事業
5. 2018 在大阪韓国人成人式への参与

五、組織部方針

1. 動員活動の活性化
2. 人権擁護活動の展開

六、宣伝部方針

1. 広報宣伝の充実化

重点方針 1 新規青年獲得および既存青年の定着化

【趣旨】

会活動において顔を合わせる機会を不定期におこなっている現状では、本会の青年からは活動実態が分かりにくく、参加する青年を定着させることが難しい。

準備や開催日程の調整などが遅くなる傾向にあるため、年間を通した定期的な活動スケジュールを立てることにより、会活動の目的意識を見えやすくし、青年に対してもアピールを強化していく。

【目的】

- ①定期的に行事を開催することで、新規・既存青年が定着しやすい環境を作る。
- ②行事開催を持続的に行い習慣化していくことで、同胞が訪れやすい場にする。
- ③本会の目的意識を明確化し会活動が活発化することを目指す。

1-1. 月一定例会の開催

【基本指針】

- ①月一回のペースで定例会を開催する。
- ②行事内容について参加者の声を拾いながら、会活動の目的と照らし合わせていく。
その中で相互にとって意味のある行事を作り上げていく。

【活動指針】

- ①原則は毎月第一金曜日開催、祝祭日の場合は第二週目の金曜日に開催する。

■夜桜お花見@南天満公園

日 時：2017年4月7日（金）19：00～

会 場：南天満公園 最寄駅：地下鉄谷町線・京阪線 天満橋駅

参加費：1,000円

1-2. 野遊会の開催

【基本指針】

- ①季節ごとに時期の特色を活かした行事を開催し、既存青年や新規青年が懇親を深める場とする。

1-3. 幹部育成

【基本指針】

- ①上期と下期の2回で研修会を開催する。
- ②動員活動などの実務的な研修もプログラムに取り入れ、活動を活性化させる。

【活動指針】

上半期；6月 ※現執行部対象

下半期；日程未定 ※活動者以上

基本方針 1. ブライダル事業の安定した運営

【趣旨】

同胞同士の結婚が減っている中、在日同胞との出会いを求める声はまだまだ多い。在日同士の結婚につながる出会いの場を提供し、同胞社会の向上に貢献していく。また、本会の自主財源確保を目指した事業として確立していく。

【目的】

- ①同胞との結婚を希望する方に、出会いの場を提供・演出する。
- ②本事業の安定した運営を目指し、民団補助金に頼らない自主財源確保を目指す。

【基本指針】

- ①新規会員の獲得
- ②既存会員の会費徴収の徹底化
- ③多様なパーティの検討及び開催
- ④事務作業の効率化
- ⑤アンケート調査に基づく需要の分析及び活用

基本方針 2. コリアマダンの運営

【趣旨】

在日同胞のアイデンティティ確立につながる文化体験の場を提供するとともに、同胞以外の人たちに対しても韓国文化に触れることができる環境を提供し文化振興に貢献する。また運営の確立を目指して本会の財源の一部として運用していく。

【目的】

- ①在日同胞及び韓国文化の学びを希望する人たちに環境を提供する。
- ②地域で韓国文化を振興させ、多文化理解につなげていく。

【基本指針】

- ①受講生の拡大

【開催概要】

期 間；2017年4月～3月

韓国舞踊教室；毎週火曜日

カヤグム教室；毎週水曜日

チャング教室；毎週金曜日

基本方針 3．ハンゲル学校の開校

【趣旨】

我々在日同胞青年は日本で生まれ育ち、世代は4世5世となり母国の文化や言葉に触れる機会が少ない生活を送る青年が多数存在する。本会で在日同胞青年が身近に民族的アイデンティティを感じるウリマルの学習を促進する。言葉を通じて母国の文化や、自身のルーツについて考える機会を提供し、母国への興味や理解を深める必要があり、在日同胞としての自覚を高める場にしたい。

【目的】

- ①在日同胞青年がウリマルを学習し、民族的アイデンティティの確立を図る。
- ②言葉を通じ母国への興味と理解を深め、在日同胞としての自覚を高める。

【基本指針】

- ①受講者の拡充に努め、多くの在日同胞がウリマルに触れる機会を提供する。
- ②継続的にウリマルを学習し、自身のルーツを感じる場を設ける。

基本方針 4．韓日連帯事業

【趣旨】

地域ネットワーク構築に向けた、韓日交流事業を推進する。

【目的】

韓日の交流を通じて両国間の理解促進・友好親善に寄与する。

【基本指針】

- ①スポーツ交流事業の開催
- ②文化交流事業の検討

【活動指針】

■韓日交流フットサル大会

日 時：2017年5月27日（土）

会 場：キャプテン翼スタジアム 新大阪

※2回目は10月、3回目は2月を予定

基本方針 4．在大阪韓国人成人式への参与

【趣旨】

成人式は民団行事の中でも多くの若年層の青年と出会うことができる貴重な場である。本会が主体的に運営する中で、新規青年にアピールをしていき交流を深めていくことで、次世代で活躍できる人材を取り込んでいく。また、青年同士が出会える場を演出する中で、会活動で培ってきた企画・運営の経験を発揮、ここでも次世代を担う人材を育成していく。

【目的】

- ①在日同胞たちの出会いの場を演出する。
- ②新規青年を獲得し、本会の次世代を担う人材を発掘する。

組織部方針 1．動員活動の活性化

【趣旨】

近年、本会の幹部・活動者の動員活動が疎かになっており、個々人のつながりを基盤とした動員活動は継続しておこなえているものの、新規発掘の方法や本会の存在を周知する活動が減少傾向にある。従来の動員活動をおこなえていないことが原因となり、次世代へ活動のバトンタッチが難しい状況に置かれている。本会で管理している名单を最大限に活用し、電話動員や戸別訪問といった動員活動の基礎を次世代へ教授することが必要とされ、人材の発掘や定着に努めなければいけない。

【目的】

- ①新規青年発掘及び定着
- ②日常動員活動の活性化

【基本指針】

- ①幹部・活動者へ動員活動を経験する場を設ける。
- ②動員活動を継続しておこなえる環境を整える。

【活動指針】

前半期・後半期に開催する幹部活動者研修の場で、それぞれの動員方法を共有する。経験者とともに戸別訪問・電話動員を実施し、本部支部の幹部が自ら動員活動をおこなえる経験を積む。

戸別訪問・電話動員をきっかけに本会へ参加し始めた青年に意見を聞き、今後の動員活動の参考にする。

組織部方針 2. 人権擁護活動の展開

【趣 旨】

近年、排外主義の台頭と一部の極端な右傾化により、地域に散在する在日同胞たちが言われなき差別と社会的抑圧に晒されている。我々は被差別当事者としてこの問題と真っ向から向き合い、対処していかなければならない。

【目 的】

- ① 人種差別の解決に向け取り組む。
- ② 多文化主義の醸成に資する。

【基本指針】

- ① 地域の取り組みに積極的参加し、市民とのネットワークを強化する。

【活 動】

- ① 人種差別撤廃に向けた取り組み
- ② 歴史修正主義への対応

宣伝部方針 1. 広報宣伝の充実化

【趣旨】

情報共有ツールとして SNS を活用しつつ、人から人へ伝達することを基本とした活動に重点を置くことで参加者同士の交流を促していく。また広報宣伝のあり方に留まらず、発信していく内容においても計画性を持たせながら充実化し、長期的な本会の宣伝活動を目指していく。

【目的】

- ① 既存会員・参加者に向けたイベント告知及び活動報告
- ② 広報宣伝を通じて会内部の活性化を図る
- ③ 新規会員の獲得
- ④ 体外へ向けた広報活動

【基本指針】

- ① 各媒体の特色を活かした広報宣伝の計画化
- ② SNS を介さずとも横と横が繋がれる情報伝達構造を構築する。

【活動指針】

- ① イベント実施後に Facebook にて内容の報告・次回以降の案内を発信する。
- ② LINE@での情報発信